

登別には人の優しさと 自然の豊かさを感ずる

「とにかく人と会って交流することが楽しみで、登別にやって来ました。でも、デンマークを出発するときは、泣きじゃくる子どもの姿を見て胸が痛みましたよ」と話すアネさん。40日間の滞在中、市内にホームステイし、学校訪問や各種市民サークルなどと交流しながら、日本文化や教育制度を学んでいます。

「リングゲ市では、登別への交流事業に参加した人がたくさんいて、出発前に聞いてきた話といえば、登別の人たちの話ばかり。そのせいか、早く登別の人たちと会って交流したいという気持ちが強くなりました。実際に会ってみると、やはりみなさん親切で優しいですね」

アネさんがもうひとつ楽しみにしていたことは、登別の自然にふれること。デンマークの国土は、山がまったくない緩やかな地形のため、特に山を見たかったといいます。

「自然の中を歩くのが好きですが、登別市内を散歩しながら見える山の木々の深く濃い緑は素晴らしいですね。雨が降るたびに緑が濃くなっていく様子などを見ていると、自然の豊かさを感ずります」



▲あやとりで小学生と交流するアネさん
(登別小学校)

昔の遊びや文化を教育に取り 入れているのが素晴らしい

「幼稚園では、先生2、3人で約40人の子どもの面倒を見ていて大変そうですね。学校では、子どもたちの自由な時間が少ないように感じました。昔の遊びや文化を教育に取り入れるなど、次の世代に引き継いでいるところが素晴らしいですね」とリングゲフリー校で教師を務めるアネさんは、学校訪問などで感じた、登別の教育の印象について話してくれました。

今度は、家族と一緒に登別を再訪し、今回の訪問で知り合った人たちと再会したいと笑顔で話すアネさん。人との出会いや自然とのふれあいを思い出し、8月1日(月)、故郷デンマークに帰国します。



K I R A R I

アネ・ノービーさん (デンマーク・リングゲ市)

登別デンマーク協会は、文化交流事業として、毎年デンマークから研修生を招き、市民との交流などを通して、登別とデンマークの交流を深めています。

今年の研修生は、アネ・ノービーさん。市民との交流や自然とのふれあいが楽しみと話すアネさんに、登別や教育の印象などを聞きました。

今度は家族と一緒に 登別を訪れて交流 したい



Anne Nordby 1966年12月生まれ 37歳
デンマーク・ファールスレ出身。現在、リングゲフリー校の教師を務める。指導教科は、数学やドイツ語、美術、環境など。夫と3人の子どもとリングゲ市に居住。